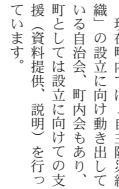
		災害から学ぶ・備える
東日本大震災から一手	Ē	大正12年に発生した「関東
夏日スフ語ジルド	-	大震災」を機に9月1日を防
		災の日として定め、全国的に
2011年3月11日に東北	被災地への支援	防災訓練等が行われています。
地方を襲った大震災。	町では災害発生直後より職	本町でも季節や形態を変え
その被害を甚大にした大津	員の派遣や生活物資の支援な	た訓練を実施していますが、
波は、近隣の町にも被害を及	どを行いました。	全国的に今回の大震災を教訓
ぼしました。	また、被災者の受入態勢も	に防災計画などの見直しを現
自然災害も少なく「安全安	整え、受入被災者への生活援	在行っています。
心で平和な町・安平町」とP	助策も設けて対応を行ってい	安平町も例外ではありませ
Rをしていますが、大震災か	ます。	んが、海岸線を持たない地形
ら学べること、備えておくこ	その他にも消防職員を災害	は津波対策の見直しの必要性
とは重要なことです。	直後から現地に派遣し救急活	も低く、今までの計画や実施
	動や捜索活動などを行ったこ	してきた訓練や講演会の内容
想定を超えた災害	とや、民間事業者が直接現地	は、今も「もしもの災害時」
昨年の大震災には「想定を	に物資を提供したこと、町民	には生かせる内容となってい
超えた」という言葉が多く使	の方々のあたたかい支援の輪	ます。
われています。	として社会福祉協議会や日本	
電気や水道、輸送経路を含	赤十字社を通じて募金が届け	防災訓練などでも説明のあっ
めてほとんどのライフライン	られました。	た事例を何点か紹介します
それました。		月気したの人に見い勿
下更な巨舌の上こっろっろな		直丁・ラジオ・
不安な状況に陥った大きな災		などを常備することが一般的に言
害となりました。		われていますが、家から逃げる際
更に福島第一原子力発電所		にはメガネやガラスを踏まないよ
で起こった事故は、今もなお		うにスリッパ(新しい靴)を手元
被災地の復興を大きく遅		に用意しておくこと、避難所生活
らせる想定のしていな		どを考えると
かった災害の例となって		いった寒さ対策、入れ歯や持病な
います。		との妻も必要とされています

動をできるようにすることが 織」の設立に向け動き出して 大切です。 で「自主防災組織」を設立し、 抑えるには地域住民の自主的 行えない場合も想定され、そ 制だけでは十分に防災活動が 乱や役場や消防などの救助体 実施、災害時には組織的な活 日頃からの備えや防災訓練の のために自治会や町内会単位 な防災活動も重要であり、そ ご近所の方たち∜です。 んなときに頼りになるのが のカ」が必要です ●災害時の防災活動は 現在町内では「自主防災組 災害による被害を最小限に 災害時には、通信手段の混 「地域







	「落ち着けと声をかける」	「家族に声をかける」	~その時あなたはどうする?~	震度 6弱の 地震発生 !
--	--------------	------------	----------------	---------------

イントです。	生の可能性があるためで重要なポ	電後の復旧時に漏電による火災発	装置が働き遮断されるが、電気は停	※ガスは大きな地震の場合、安全	張り紙をする」	「逃げたことをわかるように	「ブレーカーを落とす」	「食事を摂る」	避難する前に何をする?	
--------	-----------------	-----------------	------------------	-----------------	---------	---------------	-------------	---------	-------------	--

いざというときの防災体制

しあってみてはいかがでしょ 織」の設立について地域で話 の確立に向けて、「自主防災組